

## 福島第一K排水路情報公開問題に関する調査・検証報告書（概要）

### 第1 情報公開分科会設置の経緯、構成及び活動経過等

- 設置：平成27年3月6日
- 構成：[主査] 櫻井 正史  
[メンバー] 【弁護士】 志田 至朗、芝 昭彦、藤戸 久寿、金子 桂輔  
【技術専門家】 藤田 昭（日揮株式会社）  
【コミュニケーション専門家】 近藤 寛子（アクセンチュア株式会社）
- 活動実績：東京電力社内資料、関係者との面談（延べ14名、延べ約29時間）、  
福島第一の視察（2回）

### 第2 情報公開分科会の調査・検証の結果

#### 1 はじめに

- 本件は、福島第一原子力発電所における排水路排水について、測定データ（本件データ）を取得していながらこれを公表していなかったという事案である。
- 東京電力は、平成25年に発生したトリチウム港湾内流出問題を受け、測定データについては測定の計画段階から公表するとともに、測定結果を速やかに公表すると新たな方針（平成25年公表方針）を公表していた。
- 本件は、東京電力にとって、自らを律するルールであり、かつ社会との約束である平成25年公表方針に反する事態であり、この点こそが、本件における本質的な問題である。

#### 2 本問題の経緯及び事実関係

- 関係役職員の一部は、本件データの存在及び内容を認識していたが、本年2月の2号機建屋屋上に高線量の汚染源が存在する可能性が判明したことを契機として公表される時点まで、本件データの公表の要否について有意な検討を行うことはなかった。

#### 3 原因についての分析考察

- 関係役職員が平成25年公表方針に反し、かつ社会目線とも一致しない認識を払拭できなかった原因は、①平成25年公表方針が適切に実行に移されなかった組織上の問題点と、②社会目線に立った情報公開という精神が社内に浸透していなかった点の2点に収斂される。
- ①については、具体的には以下のとおりである。
  - ✓ 関係幹部管理職は、平成25年公表方針が社会に対する重要な約束であり、社会の信頼を回復させる重要な施策であるとの意識が不足していたため、実行に向けた当事者意識を現場レベルまで周知徹底し浸透させる努力を払うことがなかった。

- ✓ 関係各部署は、平成25年公表方針の実行に関する責任の所在や実行に向けた具体的な工程、作業分担等について、組織的かつ網羅的な検討を行わなかった。
- ✓ 関係幹部管理職は、平成25年公表方針の実行に向けて自身及び自身の部署の役割と責任についての自覚がいずれも不十分であり、同方針の実行責任及び相互チェックの責任の所在・分担について明確な共通認識が形成されていなかった。
- ✓ 上記の背景には、東京電力社内において、責任の所在を明らかにして計画の実行に取り組むことを避けようとする組織風土の存在がうかがわれ、東京電力が社会からの信頼を回復する上で大きな障害となることが懸念される。
- ②については、具体的には以下のとおりである。
  - ✓ 不断に変化する社会の関心事項を的確に把握し、これに応じて情報公開に努めるという精神は、社内に十分に浸透していなかった。
  - ✓ 社会目線に立った情報公開については、ソーシャル・コミュニケーション室（SC室）やリスクコミュニケーション（RC）が原子力部門に浸透させるための取組を継続して行っているが、原子力部門自ら社会目線に立って判断を行うことなくSC室やRCに判断を丸投げする意識が一部で広がるなど、原子力部門とSC室との間に役割等の認識のギャップがあった。

### 第3 東京電力の本問題への対応についての評価等

- 東京電力は、本問題を受け、本年3月30日に、①福島第一が測定する全放射線データを公開する、②データはウェブサイト等で広く公開し、社会的関心の高いものは会見等で解説する、③データ公開のルールと運用実績等は定期的に社外から監視・評価を受け、を骨子とする「情報公開に関する新たな仕組みと組織のあり方」を策定、公表した。
- ①・②の取組は着実に実行されており、東京電力における放射線データの公表は的確に実施されているものと評価される。
- ③については、東京電力は、①・②の取組状況を社外の各種会議体に逐次報告しており、当委員会は定期的にその結果について報告を受け、必要な場合には「評価チーム」を指名し、所見を公表することとしている。

### 第4 まとめ

- 東京電力においては、個々の役職員の取組、努力が有機的に結びついておらず、組織として十分に機能していないよううかがえる。
- 東京電力は、特に実行に移すプロセスの確立、実行の責任者の明確性、実施後のフォロー、社会に約束したことの大切さ、情報公開に当たっての社会目線の一層の浸透などの諸問題について真摯に振り返り、一層の改善を実行することが必要である。

以上